



## 平成30年度第2回班会議

1. 日時：平成30年12月13日（木）  
16時～18時
2. 会場：日本救急医学会事務局
3. 出席者：（順不同、敬称略）  
木村昭夫、小井土雄一、須崎伸一郎、  
斎藤大蔵、山口芳裕、溝端康光（坂本哲也代理）、横田裕行

### オブザーバー：

石井浩統、大元文香（日本医大救急医学）  
野口航、伊藤香葉（厚生労働省医政局地域医療計画課救急・産産期医療等対策室）

### 事務担当：

廣瀬美知子

### ～議論した内容～

#### I. 第2回班会議開催の目的

第2回班会議開催は前回7月に開催された第1回の班会議で議論した内容の進捗状況、及び各研究班における課題を他班で共有をすることを目的とした。また、2019年のプレイベントの開催を踏まえ、各班が担当した成果物の進捗状況、そして可能であればテロ対応のシミュレーション訓練等を行うことを前回議論したが、その後の研究進捗状況についても確認することとした。

#### 2. 分担研究者からの報告：

##### 1) 横田班（日本救急医学会）

医療機関のBCPの一貫として院内テロ対策マニュアルの策定を行っている。その関連で9月8日

に東京都多摩総合医療センターで行われた病院内テロ対応訓練の見学報告があった。その後、3回の研究班会議から今年度日本医科大学付属病院にて院内での爆発テロ対策のシミュレーション訓練を準備している報告があった。今回の班会議では医療機関で爆発があった際の医療スタッフの初動や安全確保の方法、さらには無差別発砲、刃物による傷害、車両による暴走行為なども想定する必要があるのではないかなどの意見があった。

##### 2) 斎藤班（日本外傷学会）

前回第1回班会議の議論を踏まえ電撃傷のマニュアルが作成中で、次回の会議を目処に素案ができると報告された。また、熱傷治療施設のキャパシティ調査に関して、最新版が作成され、過去の調査よりベッド数では1.6倍になっていることが確認された。さらに、上記を想定したDMAT訓練を行ったと報告があった。

##### 3) 山口班（東京都医師会）

東京都医師会で9月にオリパラの医療対応に関する講習会の報告があった。受講者ニーズは受講者範囲の拡大、より専門的な内容等で今後も議論を進めるとのこととした。日本医師会からは2019年ラグビーW杯開催地の医師会からの要望があるとのことであった。また、オリパラ時の救急車手配も検討課題で、ロンドン五輪を参考に調査を進めており、今年度の報告とする計画とした。

##### 4) 坂本班（代理：溝端、日本臨床救急医学会）

熱中症に関する訪日外国人への診療ガイドラインをコンソーシアムHPにアップした。また、ファーストレスポンス教育に関する取り組み

## NEWS LETTER

平成30年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療開発推進研究事業） 「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における救急・災害医療提供体制に関する研究」

Vol. 2.

Dec. 13th. / 2018

の報告とFOP診療に関わる医療スタッフ教育の検討が進められ、約800人が対象となりIOCの基準との整合性に関しても検討を進めていくことが報告された。

##### 5) 須崎班（日本中毒学会）

化学災害アンケートの実施とその結果の報告があった。都内と都外で対応にわずかな温度差があるものの、対応体制は想定したよりも高い数字であり、数値的には対応できると報告された。救急現場での使用を想定した化学災害対応リーフレット作成を進めていく。

##### 6) 木村班（日本外傷学会）

昨年度の成果物としての銃創・爆傷に関する治療のガイドラインを現場の診療現場で容易に使用できるリーフレット作成の検討が進んでいることが報告された。

##### 2) 小井土班（日本災害医学会）

災害診療記録2018に関する解説があった。改定の背景、大規模イベント版J-SPEED、オリパラ版の構想などに関して説明があった。オリパラの際の使用範囲としては、ポリクリニック、救護所や周辺の病院での使用を想定している。J-SPEEDは傷病者のリアルタイムの情報が把握できるツールでもあるので、多数傷病者発生の際にその対応策を立てるためにも有用なので、期待が大きいとの発言があった。

### ～今後の予定～

最後に本研究事務局から年度末に少なくとも一回班会議を開催する予定であることが案内された。（文責：横田裕行）